

アキアミは何処からやって来るのか？

サクラエビの仲間であるアキアミは、塩辛、アミ大根、かき揚げ等で食される小型のエビで、岡山県は全国有数の産地となっています。生息場所は河口域や浅海域で、本県では主に、児島湾内でアミすくい網、児島湾外で小型底びき網によって漁獲されています。漁業者から「アミは何処からやって来るのか？」と、よく聞かれますが、このことについて、幼生の分布状況調査から少し知見が得られたので紹介します。

平成25～27年にアキアミ幼生の分布調査を行ったところ、幼生は7～10月の間に出現しました（写真1、図1）。7月は出現箇所、尾数共に少ないものの、8、9月には主に瀬戸内市以東で出現尾数が増加し、10月には県東部海域全域で幼生が確認できるようになりました（図1）。

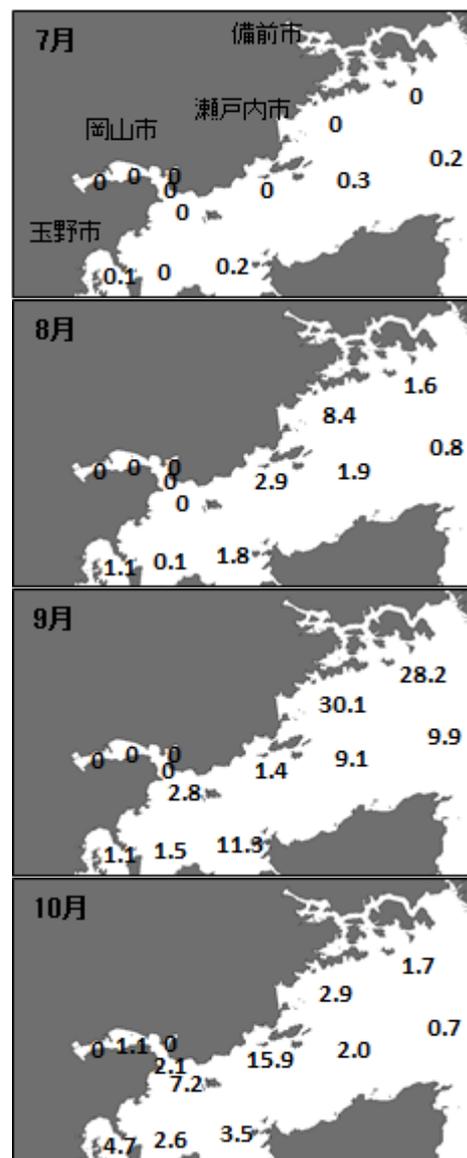
この結果からは、アキアミは7月から9月にかけて瀬戸内市以東の海域を起点として個体数を増加させ、西方へ分布域を広げていくと推察されました。一方、主要な漁場である児島湾内で幼生が出現したのは10月のみであり、尾数も湾外に比べわずかでした。これらのことから、児島湾内で漁獲されるアキアミは秋以降に湾外から加入して来ると考えられました。

卵、幼生、稚エビの出現状況はアキアミ資源の動向を把握する際に貴重な手掛かりとなります。今後も幼生の出現状況と漁獲動向を照らし合わせながら、本県の重要漁獲対象種であるアキアミを適正に利用していく必要があると考えます。

（資源増殖室：弘奥）



写真1 アキアミ幼生と採集用ネット



単位：尾/m³

図1 県東部海域におけるアキアミ幼生の分布
(H25～27年の平均値、児島湾内はH25年のみ)